

円形脱毛症は代表的な脱毛症で、主に円形に頭髮が抜けます。脱毛部は一個とは限らず、程度が強くなれば多発し、すべての頭髮が抜けることもあります。さらに眉毛、まつげ、体毛まで抜けることもあります。アトピー素因など生まれ持った遺伝的体質に、疲労、精神的ストレス、感染など何らかの環



久保 宜明 教授



徳島大学病院皮膚科

境因子が加わって発症すると考えられています。誘因のはっきりしない場合も多く、詳細はまだ不明です。毛は毛の根元にある毛母細胞が分裂・分化することによって作られます。最近の研究から、自己のリンパ球が変調をきたし、それらの毛母細胞を攻撃し障害を加えることによって脱毛する、一種の自己免疫反応と考えられます。治療方法は、リンパ球が毛を攻撃し脱毛が進行中の急性期と、ほぼ炎症が終息し症状が固定した慢性期の二つに大別されます。

リンパ球の変調から円形脱毛症に

急性期ではまず、リンパ球の働きを抑える抗炎症目的でステロイド外用剤(主に液剤)を使用します。1日1、2回、脱毛部と周囲の所々の皮膚に液剤を少し塗り、指で少し広げるように塗ります。広範囲に急速に脱毛する場合には、入院してステロイド剤を点滴するステロイドパルス療法が効果的です。ただし、この点滴は原則として小児には使えません。

慢性期では局所免疫療法が有効です。局所免疫療法とは、週に1回くらい軽いかぶれをおこさせて発毛を促進させる方法です。DPCPやSADBEなどの物質を感作させた後、適当な濃度を脱毛部に塗ります。2、3日で自然に治るような軽い炎症の惹起によって発毛効果がみられます。強いかぶれを生じない限り副作用はなく、小児にも有効です。

小さな脱毛は自然治癒も期待できます。しかし、円形の脱毛であっても、円形脱毛症とは限りません。円形の脱毛に気付いた場合には、なるべく早く近くの皮膚科専門医に相談することをお勧めします。徳島大学病院では、通常の初診後に日曜午後後の脱毛外来で診察加療しています。